

## 平成22年度公共用水域の水質測定結果について

平成23年9月9日

環境政策課

愛媛県環境審議会の答申を受けて策定した「平成22年度公共用水域の水質測定計画」に基づき調査した結果は、次のとおりでした。

- 1 調査期間 平成22年4月～平成23年3月
- 2 実施機関 愛媛県、松山市、国土交通省、独立行政法人水資源機構
- 3 測定項目及び調査地点

区分	生活環境項目	健康項目	ダイキソ類	要監視項目	その他
項目数	10	27	1	26	16
地	河川	71	39	7	25
点	湖沼	8	6	1	1
数	海域	130	24	4	6

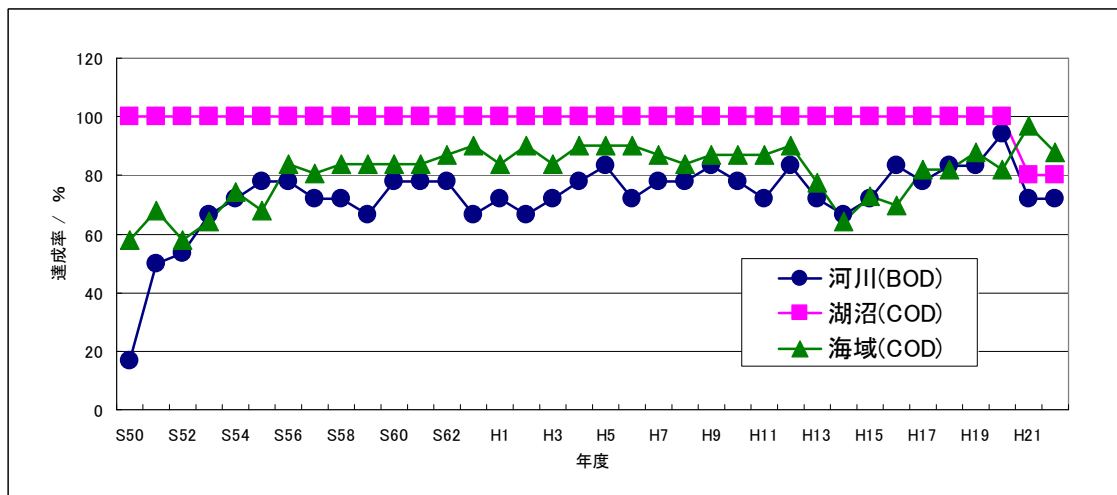
## 4 調査結果の概要等

### (1) 生活環境項目

ア 環境基準点における環境基準の達成状況は、河川(BOD)が72%、湖沼(COD)が80%、海域(COD)が88%であり、全体では82%であった。

### BOD又はCODの環境基準の達成状況

区分	平成22年度		(参考) 平成21年度	
	達成率	達成水域数／調査水域数	達成率	達成水域数／調査水域数
河川	72%	13/18	72%	13/18
湖沼	80%	4 / 5	80%	4 / 5
海域	88%	29/33	97%	32/33
合計	82%	46/56	88%	49/56



参考：環境基準達成率の経年変化（BOD又はCOD）

○未達成水域の状況等

区分等		22年度	21年度
河川	AA類型	石手川(乙)、中山川水域(甲)	石手川(乙)、銅山川水域
	A類型	重信川(甲)、肱川水域(甲) 中山川水域(乙)	重信川(甲)、肱川水域(甲) 中山川水域(乙)
湖沼	A類型	新宮ダム貯水池	新宮ダム貯水池
海域	A類型	東予海域(丙)、宇和海一般、 燧灘東部	燧灘東部
	B類型	三島川之江地先海域(4)	—

イ 全窒素及び全燐の環境基準の達成状況（海域のみ）

	22年度	21年度
全窒素	100%（5水域）	100%（5水域）
全燐	100%（5水域）	100%（5水域）

(2) 健康項目

調査を実施した69地点（河川39地点、湖沼6地点、海域24地点）全てにおいて、環境基準を達成した（平成21年度も達成）。

健康項目の調査結果概要

(単位：mg/ℓ)

項目	調査結果	基準値
カドミウム	<0.001	0.01以下
全アンモニア	<0.1	検出されないこと
鉛	<0.005	0.01以下
六価クロム	<0.02	0.05以下
砒素	<0.005～0.008	0.01以下
総水銀	<0.0005	0.0005以下
アルキル水銀	<0.0005	検出されないこと
PCB	<0.0005	検出されないこと
ジクロロメタン	<0.002	0.02以下
四塩化炭素	<0.0002	0.002以下
1,2-ジクロロエタン	<0.0004	0.004以下
1,1-ジクロロエチレン	<0.002	0.1以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	<0.004	0.04以下
1,1,1-トリクロロエタン	<0.0005	1以下
1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	0.006以下
トリクロロエチレン	<0.002	0.03以下
テトラクロロエチレン	<0.0005	0.01以下
1,3-ジクロロプロペン	<0.0002	0.002以下
チラム	<0.0006	0.006以下
シマジン	<0.0003	0.003以下
オキシカルブ	<0.002	0.02以下
ベンゼン	<0.001	0.01以下

セレン	<0.002	0.01以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	<0.02～2.3	10以下
ふっ素	<0.08～0.45	0.8以下
ほう素	<0.02～0.31	1以下
1,4-ジクロロベンゼン	<0.005～0.01	0.05以下

### (3) ダイオキシン類

調査を実施した12地点（河川7地点、湖沼1地点、海域4地点）全てにおいて、環境基準を達成した（平成21年度も達成）。

#### ダイオキシン類の調査結果概要

（単位：pg-TEQ/ℓ）

区分	水質			底質		
	地点数	調査結果	基準値	地点数	調査結果	基準値
河川	7	0.021～0.21	1以下	6	0.31～12	150以下
湖沼	1	0.072		1	12	
海域	4	0.019～0.057		4	0.32～6.1	

### (4) 要監視項目

調査を実施した32地点（河川25地点、湖沼1地点、海域6地点）において、2地点でアンチモンが、1地点でウランが指針値を超過した。

#### 要監視項目指針値超過地点の調査結果概要

（単位：mg/ℓ）

区分	超過地点	項目	調査結果 (年平均値)	指針値	要因等
河川	加茂川水域St-7	アンチモン	0.16	0.02	地質由来
	砥部川水域St-2		0.059		
海域	松山海域St-9	ウラン	0.0026	0.002	海水由来

### (5) その他項目

内分泌攪乱化学物質（環境ホルモン物質）については、調査を実施した5地点（河川1地点、海域4地点）全てにおいて、4項目ともに検出されなかった（平成21年度も検出されず）。

#### 内分泌攪乱化学物質の調査結果概要

（単位：μg/ℓ）

区分等	調査地点数	ニルフェノール	4-オクチルフェノール	ビスフェノールA	DDT
河川	1	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
海域	4	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
定量下限値	—	0.1	0.01	0.01	0.05

## 平成22年度地下水の水質測定結果について

平成23年9月9日

環境政策課

愛媛県環境審議会の答申を受けて作成した「平成22年度地下水の水質測定計画」に基づき調査した結果は、次のとおりでした。

1 調査期間 平成22年4月～平成23年3月

2 実施機関 愛媛県、松山市、国土交通省

3 調査結果の概要等

(1) 継続監視調査

ア 測定項目及び調査地点

区分	地点数	環境基準項目	要監視項目
愛媛県	51	4 <sup>※1</sup>	—
松山市	13	5 <sup>※2</sup>	—
国土交通省	6	14 <sup>※3</sup>	5 <sup>※4</sup>

※1 砒素、1,1,1-トリクロロエタン、テトラクロロエチレン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素

※2 1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素

※3 ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1,3-ジクロロプロパン、ベンゼン、塩化ビニルモノマー、1,4-ジメチルベンゼン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素

※4 クロロホルム、1,2-ジクロロプロパン、p-ジクロロベンゼン、トルエン、キシレン

イ 調査結果（基準超過地点）

○ 環境基準項目

調査を実施した70地点において、砒素が1地点、テトラクロロエチレンが1地点、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素が24地点で、環境基準を超過した。

（平成21年度は、砒素が1地点、テトラクロロエチレンが1地点、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素が28地点超過した。）

・砒素

（単位：mg/ℓ）

調査地点	平成22年度	平成21年度	環境基準
今治市関前	0.015	0.014	0.01以下

・テトラクロロエチレン

（単位：mg/ℓ）

調査地点	平成22年度	平成21年度	環境基準
松山市生石町	0.015	0.015	0.01以下

・ 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素

(単位：mg/ℓ)

地区名	原因	調査結果	
		平成 22 年度	平成 21 年度
今治市大西町山之内	施肥	17	18
今治市大西町九王	施肥、生活排水	12	12
今治市波方町波方甲	生活排水	11	12
今治市菊間町池原	施肥	11	11
今治市伯方町叶浦	施肥	16	16
今治市上浦町盛	施肥	18	17
今治市上浦町井口	施肥	18	21
今治市宮窪町友浦	施肥	17	16
今治市大三島町野々江	施肥・生活排水	14	11
上島町弓削狩尾	施肥	27	23
上島町生名	施肥	19	16
松山市山西町	施肥	20	18
松山市宮野	施肥	14	12
松山市小浜	施肥	11	12
松山市宇和間	施肥	12	12
松山市津和地	施肥	12	16
松山市上怒和	施肥	24	12
伊予市森	施肥、生活排水	12	23
伊予市双海町上灘	生活排水	18	19
松前町北黒田	施肥、生活排水	16	14
砥部町川井	施肥	25	25
八幡浜市保内町川之石	施肥	13	13
内子町大瀬	施肥（菜園）	21	19
伊方町二見	施肥	18	13

- 要監視項目  
調査を実施した 6 地点において、指針値の超過はなかった。

(2) 概況調査

ア 測定項目及び調査地点

区分	地点数	環境基準項目	要監視項目
県	30	7※	—
松山市	12	28	24

※ 砒素、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふっ素、ほう素、塩化ビニルモノマー、1,2-ジクロロエチレン、1,4-ジクロロベンゼン

イ 調査結果

調査を実施した42地点において、環境基準項目、要監視項目ともに基準等を達成した（平成21年度も達成）。

(3) ダイオキシン類調査

ア 調査地点

松山市 2 地点

イ 調査結果

環境基準を達成した（平成21年度も達成）。